

4 調査問題の活用

【1】年間指導計画に、「調査問題の活用」を位置付ける

調査問題の中から、正答率に課題のあった問題を選択し、年間指導計画に発展学習扱いとして位置付ける。年間指導計画の展開計画に、右図の「①調査問題活用シート」と「②チャレンジシート」を色の付いた紙に印刷して綴っておく。教師が意識して確実に授業で扱い、解く時間を確保することで、児童自身に身に付けなければならない力を実感させ、「できる喜び」を味わわせることにつながる。

①調査問題活用シート（教師用）

課題のあった調査問題とその指導のポイントを明記した教師向けの指導資料である。国や県から出ている各種調査の報告書等をもとに、学力向上担当者と担任が中心となって自作し、活用している。

②チャレンジシート（児童配付用）

調査問題と解決のヒントを併記した児童向けの配付資料である。児童がそのまま使うことができる様式で①のシートと併せて利用することで効果が期待される。学力向上担当者と担任を中心として自作し、活用している。

【2】「関連表」「パワーアップシート」等と連携した活用を図る

県教委作成「関連表」「パワーアップシート」を年間指導計画の冒頭に差し込み、利活用を図っている。今後は①・②のシートに「パワーアップシート」や「レディネスシート」の内容を追記して充実させる。

①調査問題活用シート

5年	算数	単元名 【比べ方を考えよう】	時間 15分
出題：(27)年度 全国学力・学習状況調査より ●おつかい券の残高取りと約定・判断 20%増量前の量(基準量)を求める問題 次に、せんざいを買います。 家で使っているせんざいが、30%増量して残っていました。 増量後のせんざいの残高は80円です。 増量前のせんざいの残高、何円ですか。求める式と答えを書きましょう。			
★ 問題を解くための指導のポイント 基礎・基本・・・百分率の割合による表し方 考え方・・・全体を「1」とみて、部分の大きさを表して比べること 比較量は、基準量 × 割合 基準量は、比較量 ÷ 割合 で求められること。			

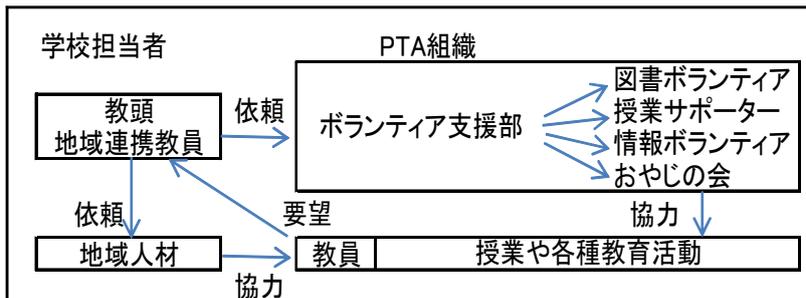
②チャレンジシート

5年	算数	【比べ方を考えよう】	名前
出題：(27)年度 全国学力・学習状況調査より ●おつかい券の、せんざいを残るところです。 家で使っているせんざいが、30%増量して残っていました。 増量後のせんざいの残高は80円です。 増量前のせんざいの残高、何円ですか。求める式と答えを書きましょう。			
★ 問題を解くためのヒント 百分率・・・20%を小数で表そう。 考え方・・・全体を「1」とみて、増量後のせんざいの量を小数で表してみよう。 比較量は、基準量 × 割合 基準量は、比較量 ÷ 割合 で求められること。			

5 授業サポーターとの協働による授業実施のための体制づくり

児童の学力向上には学習意欲を向上させる様々な体験活動の充実が必要であり、そのためには、保護者や地域人材による学校支援ボランティアの活用が大変効果的である。その支援体制を恒常的に継続していくため、従来のPTA組織の中に新たに「ボランティア支援部」を設置し、保護者が自主的に学校の教育活動に合わせて様々なボランティア活動ができる組織体制としている。さらに、保護者が協力できやすいようにボランティア支援部内に4種類のチームを設け、地域人材の協力も得ながら、学校からの要請に応じて各ボランティアから人材を派遣する仕組みをとっている。

その中でも、学習意欲を向上させるための活用例として理科の授業における授業サポーターがある。サポーターは、ビオトープの整備や昆虫観察用植物の設置などの環境構成やゲストティーチャーとして学習支援を行いながら、児童に体験的な学びの機会を充実させており、児童の学習意欲の向上に効果的である。さらに、年2回ボランティア会議を開催し、学校と各ボランティア組織で活動方針やその内容などについて共通理解することで、学校との協働による学習意欲の向上のための支援体制を構築している。



〈理科の授業における授業サポーター活用の様子〉